

東南アジア貿易とバンコク における熊本県物産見本市

☆☆☆

今回の見本市の基本的考え方としては、九州の中心地である本県が東南アジアに対する貿易基地としての機能を發揮できるか、また、バンコクは過去五回九州各県の共同見本市を開催し、本県の物産が最も進出しているところで、今後バンコクが東南アジアの拠点的作用を果たし得るかどうかを調査することが最大の目的であった。

東南アジア全般について共通していることは、タイを除いては各国とも長い間の植民地時代を経て、戦後それぞれ獨立しているが、経済的にはまだまだ弱い面を沢山もっており、工業化政策を強力に推進することによって、経済発展を図っているというのが現状である。各国とも工業化政策の推進によって当然考えられることは、資本、技術の導入であり、その結果製品の国産化率を高める措置がとられ、国内産業保護のため、輸入制限の措置となつて表われる。

東南アジアで最も工業化が進んでいるといわれている香港、台湾などは軽工業品については、日本の強力な競争相手と

なっている。香港においては、スイスの時計メーカーとの合弁、輸出好調を背景とするかつて産業の好況、電子産業部門のテープレコーダー、ステレオ、また玩具については、香港の獨創性が買われるなど、製品についての高級化がなされている。台湾は農業と工業の比率が逆転し、一九五二年の工業一七・八%が一九六八年には二九・二%に拡大し、同じく農業は三五・七%が二三・二%に減少している。これは高雄の輸出加工区の一九六六年採算以来、種々の優遇策を以て、内外の資本を誘致した結果で、投資認可件数百十五件となり、ほぼ誘致目標を達し、六八年上半期の輸出額は八百九十五万ドルを記録し、七〇年には一億ドルを目標にしている。さらに、高雄に第二輸出加工区（敷地百ヘクタール、収容企業百八十社）も建設の予定であり、台中に第三輸出加工区を企画している。この二つの国については、日本からの中小企業製品の輸出がますます困難となり、そのうえ先進地諸国において、お互いに競合となつて表われている。

その他、タイにおいては、一九六〇年に産業投資奨励法を制定し、工業化への意欲を見せている。シンガポールでは、従来の中継貿易港としての性格とともに工業化政策の一端としてジュロン地帯に臨海工業地帯を建設している。マレーシアは六八年投資奨励法を制定し、最も遅れていると云われているインドネシアにおいては、米国および日本からの開発援助が非常に活発化しており、それぞれに実情に合った工業化政策が打ち出されている。

バンコクにおけるジェトロ、大手商社との懇談会において、従来は貿易即見本市と考えられていたが、今後、発展途上国への貿易は、資本、技術のついでに経済発展のための生産財のものが主力であるので、まだまだ商品の高度化による中小企業の特徴を生かした商品輸出の可能性はあると思われるが、将来は充分検討を加えねばならない問題である。

タイ政府のナム貿易局長との会談においても、現在タイは貿易収支は輸出八億ドル、輸入十三億五千万ドルで、五億五千万ドルの入超であり、総合収支は赤字となっているが、ベトナム和平による将来を考えると、現在の貿易アンバランスを是正することが急務であり、最大の輸入相手国である日本に対し、タイの一

次産品をいかにして多く買付けさせるか現在の最大関心事であることを力説している。

以上のように現在東南アジア開発途上国に対する貿易についての考え方も、経済協力による開発輸入が重要な問題であり、本県の中小企業製品の輸出についても、この状況を充分考慮して対処しなければならぬのではないかと思われる。

今回の見本市における県産品の引合状況は約百件に達したが、前に述べたように殆んど生産財的なもので、従来から取引のあった金庫、プロックマシン、薬品などは益々販路拡大のための機能を發揮する体制づくりができあがり、新規商品アルミサッシ、プレス機械、防火板、花筵、タイル、薬品などは引合が殺到し、代理店選定について迷うなど嬉しい悲鳴を上げている状況である。

はじめに述べたように、本県の東南アジアに対する貿易基地としての役割を果たすためには貿易を通じての交流を盛んにすることが、最も重要であり、輸出商品についての技術の指導、商品のPR、技術研修生の招へい、留学生の受け入れなどの県、業界一体となった努力が必要であり、大型空港建設に伴う、国際航空路の誘引、港湾の整備とともに東南アジア定期航路の開設を図り、また輸出専門業種の誘致を図る等の施策を強力に推進することによってコンスタントに貨物を集積する機能の充実が必要であると思われる。

(商政貿易課)



《グラビヤ特集》

東南アジア
バンコク見本市の旅から